

相談方法別

電話相談	16,117
面談（来所相談）	11,196
訪問相談	10,595
メール相談	5,871
FAX相談	42
合計	43,821

平成26(2014)年10月1日開所、令和6(2024)年9月30日で10周年

ひきこもり・ニート・不登校など様々な悩みや困難を抱える子ども若者と
そのご家族の方などのご相談に利用されてきました

H26.9.1～R6.3.31	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
相談のべ件数（件）	1,091	2,676	5,087	4,791	5,221	5,026	4,745	4,838	4,986	5,360	43,821
当事者数（新規・人）	364	358	365	344	305	340	355	309	269	247	3,256

ポラリス☆とちぎの令和5年度の相談件数は、新規扱いで247件、
のべで5,360件でした。

★新規の内訳をみると、ひきこもり103件（41.7%）ニート18件（7.2%）
不登校53件（21.4%）精神疾患22件（8.9%）その他51件（20.8%）
ひきこもり・ニート・不登校が全体の約7割を占めています。

★相談方法別でみると

ひきこもり→ 電話相談23件、面談25件、訪問39件・メール16件
不登校→ 電話相談7件、面談19件、訪問18件、メール9件

相談方法は、相互の行き違い等を防ぐため直接お会いして話すことを
お勧めしています。また相談者を見ると、ひきこもりも不登校も相談方
法によらずご家族(親)からの相談が一番多く、その為ポラリスでは家族
相談を丁寧に行っています。



★【出張相談事業】

平成30年度より県内各市町で出張相談事業を実施し
ています。

ひきこもり支援においては、当事者の方やご家族が、
安心して相談を継続できるよう各地域ごとに支援体制
を整備し充実させていくことが求められています。
令和6年度までに、県内14の市町で出張相談を実施し、
そのうち5市町（佐野市、小山市、真岡市、栃木市、
さくら市）が相談の主体をポラリス☆とちぎから地域
に移管し、市町独自で相談会・家族会・居場所等、
それぞれの地域の特徴や強みを活かした取り組み・活動
が広がってきています。

今後も、各地域や市町の方々と協力・連携しながら、
栃木県内のひきこもり支援がますます充実していくよ
う努めて参ります。

★【ひきこもりサポーター養成研修】

毎年11月にひきこもりサポーター養成研修を開催し
ています。栃木県内各市町から推薦され、3日間の研
修を修了後にひきこもりサポーターに登録された方は、
170名を越えました。

ひきこもりサポーターは各地で相談の同席、居場所
の運営サポートなど幅広く活躍しています。中にはサ
ポーターが会を作って親と子どもの居場所を展開して
いる地域もあります。また、国が推奨している事業
（ひきこもりサポート事業、ステーション事業）を受託
する自治体や社協ではサポーター養成研修を受けるこ
とが流れになっています。まさに官民連携でひきこも
りの支援に向かっていくサポーター養成の栃木モデル
は、国からも注目されています。



【講演会】

平成26年度から毎年講演会を開催、
第一線でご活躍中の講師をお招きし
好評をいただいています。

- 平成26年度 困難を抱える若者たちとその支援
- 平成27年度 ひきこもっている子に家族はどう関わるか
- 平成28年度 思春期の不登校・ひきこもり支援
- 平成29年度 子ども・大人の発達障害
- 平成30年度 長期化・年長化するひきこもりの理解と支援
- 令和元年度 ひきこもりの現状を踏まえた心理的支援
- 令和2年度 ひきこもり支援と対話実践
- 令和3年度 認知行動療法をつかってころを元気にする
- 令和4年度 ひきこもり経験者として伝えたいこと
- 令和5年度 8050問題解消に必要な3つの視点と課題
- 令和6年度 ひきこもり支援の現状とこれからの支援に望むこと
- 令和7年1月 子ども若者を見守る居場所と地域ネットワークづくり



養成研修グループワーク

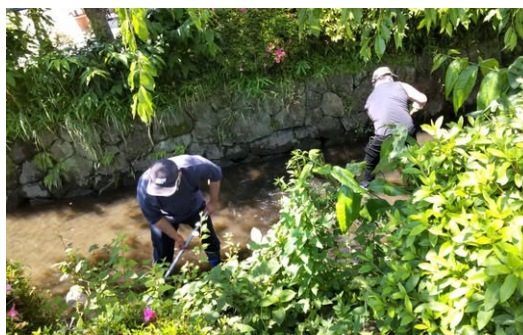
参加されるメンバーにとって、集中訓練自体が非日常だったわけですが、良くも悪しくも、慣れてくるといいますか日常になってくる頃でもあります。

コツコツと学び積み上げること、話し合い、協働し何かを実現する(こども食堂での料理や、遊びなど)ことの楽しさや大変さを実感する時間でもあると思います。

4. 挑戦としての職場体験

と、そうこうしているうちに、集中訓練は終盤の職場体験を迎えます。

各々、自分が経験してみたい体験先での約1ヶ月の挑戦が始まることになります。



ボランティア活動

基本、メンバー全員での活動・取り組みだった場面から、個人での挑戦の場面へと切り替わっていくことになります。

職場体験期間中(集中訓練期間中を通して)、振り返りや面談などを通して、不安や問題なども共に解消しながら、進んでいくかたちになります。



座学の様子

5. 成果発表会・修了式

職場体験が終わると、この3ヶ月で考えたこと、感じたこと、得られたことなどを発表する機会(成果発表会)を設け。「〇〇が印象に残っています」「△△が大変でした」「就職に向けてがんばります」などの言葉を残し、それぞれの修了を迎えることになります。

※集中訓練修了後も、就職・進路が決定まで(場合により決定後も)、とちぎ若者サポートステーションのフォローアップがあります。

とちぎ若者サポートステーションのご案内

とちぎ若者サポートステーションでは、集中訓練プログラム以外にも様々なプログラムの開催しております。ご興味のある方は、下記のQRコードよりホームページ、フェイスブックなどをご参照ください。

【ホームページ】



【フェイスブック】



～ご支援・ご協力くださっている皆様、いつもありがとうございます～

《ご寄付くださった方々(10月～ 順不同)》

浄土宗浄鏡寺様・ライオンズクラブ国際協会 333-B 地区様・
旬クイーン洋菓子店様・日本キリスト教会宇都宮松原教会様・
高橋昭彦様・深澤敏様・村上修一様・平石恵子様・塚本明子様

《物品をご寄付くださった方々(10月～ 順不同)》

佐藤高代様・林哲矢様・Chocolate hiro Raw Chocolatier 宇佐美弘子様・
御菓子司榭金様・他匿名の方々

《新規入会してくださった方々(10月～ 五十音順)》

個人：片岡豊美様・村上修一様

★★★ キッズハウス いろどり&キッズハウス はなびへのご寄付は、
「いろはな通信」にてご紹介させていただいております。★★★

当法人は皆様からの多大なご支援・ご協力により支えられております。
重ねてのお願いになり、恐縮ではございますが、下記 QR コードをご確認いただき、
ご協力いただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



学習支援ボランティア募集

てしごとや ご寄付のお願い



キッズハウス・いろどり、
キッズハウス・はなび
ご寄付のお願い

機構 Q&A

Q. とちぎサポステは開設されて、今年で何年になるでしょうか？

A. 開設は2007年5月、2025年5月で、18年目になります。

Q. とちぎサポステの部屋には「花」「月」などの名前がついています。その由来は？

A. 花鳥風月、風花雪月など季節を感じることで、四字熟語に由来しています。

Q. 「ポラリス☆とちぎ」の名前の由来は？

A. 平成26年の開所前に県民に名前を募集いたしました。その中から、「北極星」を表すポラリスを福田富一知事
自ら選ばれて『ポラリス☆とちぎ』となりました。「☆」が間にあるのも北極星が所以になっています。
ちなみに北極星は昔から旅人や船乗りが夜中に道に迷わぬよう道標にした星なのだそうです。
ポラリス☆とちぎはそんな北極星のような存在を目指しています。



一般社団法人栃木県若年者支援機構には
今回の特集記事以外の事業もございますので、
ぜひホームページをご覧ください。

<https://www.tochigi-yso.org/>

QR コードはこちら



編集後記

皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。
皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。寒い日々が続いております。体調
にお気をつけてお過ごしください。

す